

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	871100178
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	水海道ケアセンター
所在地	常総市天満町1785-1 (電話) 0297-20-1030

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年8月3日	評価確定日	平成19年11月30日

【情報提供票より】(平成19年7月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	19人, 非常勤 0人, 常勤換算 19人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨2階	造り
	2階建ての	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費25,000 円	
敷金	有(100,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(償却期間4年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400 円			

### (4) 利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	17名	男性	5名	女性	12名
要介護1	2	要介護2	5		
要介護3	7	要介護4	5		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85歳	最低	57歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	パークシティッククリニック、さくら病院、水海道西部病院
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員間で話し合った独自の運営理念を作成し、利用者が笑顔でともに支えあいながら生活ができるよう、職員間で協力しながら運営理念の実践に取り組んでいる。  
ホーム開設当初より、利用者が地域の中で生活できるよう、町内会に入会しており、町内の一斉清掃時には、利用者と職員が参加している。  
また、小学生の体験学習の受け入れや敬老の日などに幼稚園児がホームを慰問するなど、利用者が地域の方々と交流を図る機会を設けている。  
利用者一人ひとりの生活歴を把握するとともに、ホームでの生活で把握した楽しみごとや得意なことを取り組めるよう、支援している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果をホーム会議で全職員に公表し、改善に関する意見交換を行うとともに、家庭的な食器への変更や市町村との連携を図るよう、改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ユニットごとに、管理者やユニットの中心となる職員で話し合いを行い、自己評価を行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者や家族会の代表、民生委員、町内会の会長、市の職員、ホームの職員を構成員とする運営推進会議を定期的に開催している。 運営推進会議では、ホームの運営に関する積極的な意見交換を行っており、出された意見をサービス向上に活かしている。 市の担当課とは、配食サービスの受託や市内のグループホーム連絡協議会の会合など、運営推進会議以外にも、情報交換を行っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用にあたり、重要事項説明書にホームの苦情受付窓口や担当者及び市介護保険担当課などの連絡先を明示するとともに、家族会の開催時に意見を求めるほか、意見箱を設置している。 家族の面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態等について報告している。 また、利用者を担当する職員が、日頃の様子や健康状態、次月の行事予定などを記した月刊報告書とそよ風だより、金銭の出納状況を家族に送付している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム開設当初より町内会に入会しており、町内の一斉清掃時には、利用者と職員が参加している。 また、小学生の体験学習の受け入れや敬老の日などに幼稚園児がホームを慰問するなど、利用者が地域の方々と交流を図る機会を設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム開設当初より町内会に入会しており、町内の一斉清掃時には、利用者と職員が参加している。 また、小学生の体験学習の受け入れや敬老の日などに幼稚園児がホームを慰問するなど、利用者が地域の方々と交流を図る機会を設けている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で話し合った独自の運営理念を作成している。 ホームは開設当初より、町内会に入会するなど、利用者が地域の中で生活できるよう、働きかけを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に運営理念を唱和している。 また、職員は利用者が笑顔でともに支えあいながら生活ができるよう、支援している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム開設当初より町内会に入会しており、町内の一斉清掃時には、利用者と職員が参加している。 また、小学生の体験学習の受け入れや敬老の日などに幼稚園児がホームを慰問するなど、利用者が地域の方々と交流を図る機会を設けている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットごとに、管理者やユニットの中心となる職員で話し合いを行い、自己評価を行っている。 外部評価の結果をホーム会議で全職員に公表し、改善に関する意見交換を行うとともに、家庭的な食器への変更や市町村との連携を図るよう、改善している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族会の代表、民生委員、町内会の会長、市の職員、ホームの職員を構成員とする運営推進会議を定期的開催している。運営推進会議では、ホームの運営に関する積極的な意見交換を行っており、出された意見をサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課とは、配食サービスの受託や市内のグループホーム連絡協議会の会合など、運営推進会議以外にも、情報交換を行っている。また、中高生の介護体験学習を受け入れており、学校の先生とも連携を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態等について報告している。また、利用者を担当する職員が、日頃の様子や健康状態、次月の行事予定などを記した月刊報告書とそよ風だより、金銭の出納状況を家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用にあたり、重要事項説明書にホームの苦情受付窓口や担当者及び市介護保険担当課などの連絡先を明示するとともに、家族会の開催時に意見を求めるほか、意見箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者（センター長）や管理者は、職員の希望や要望にあわせた勤務形態や勤務ローテーションを組み、離職を防ぐよう、努めている。また、利用者一人ひとりの性格等に配慮した、担当職員を配置している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は、職員一人ひとりの年間研修計画を立て、職員に周知するとともに、研修に派遣している。 研修受講後には、報告書を作成し、重要なことは全体会議でホーム内に周知を図っている。 また、月に1回の全体会議では、事例検討会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム事業所による連絡協議会を設置しており、会議に参加し、連携や交流を図っている。 外部研修の研修案内に基づき、職員が受講を希望するときは、職員を派遣している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1階で行っているデイサービスの利用者や配食サービスの利用者がホームに入居しており、利用者や職員等と交流を持つことができる。 利用希望者には、運営者や管理者が、事前に利用予定者や家族と面談を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの生活歴を把握するとともに、入居後の生活の中で把握した楽しみごとや得意なことを取り組めるよう、支援している。 また、職員は利用者を手伝ってもらった後には感謝の言葉かけを行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用契約前に運営者や管理者が、利用者や家族と面談し、意見や希望を聴取している。 また、入居後の生活の中で知りえた情報をもとに、利用者一人ひとりにあった暮らしができるよう、支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のことを把握するため、利用者や家族、関係者から情報を収集している。 利用者等から把握した希望や要望、職員からも意見を聞き、利用者に応じた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間満了時や利用者の状態の変化に応じて介護計画の見直しを行っている。 介護計画の見直しは、利用者の課題の達成状況の評価し、家族からの意見や要望を聴取するとともに、職員にもカンファレンスで意見を聞いて、計画に反映している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問した家族等が、宿泊することができるよう、寝具等を準備し、希望に応じて提供している。 1階で行っているディサービスの利用者で、利用時間後に迎えに来る家族のために、ホームで預かり、利用者と一緒に会話をするなどの取り組みを行っている。 また、行政の委託事業で地域の高齢者を対象にした配食サービスを通じて、地域の福祉ニーズの把握や見守り活動に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者がかかりつけの病院で診察を受けることができるよう、家族と連携している。 また、協力医療機関が定期的に往診に来ており、利用者一人ひとりの状態を把握している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	センター内で終末期に向けた研修を受講した職員から、情報を得ているが、対象者もいないため、方針の検討や話し合いをするまでには至っていない。	○	医療的な対応が必要な重度化や終末期に向けた対応ばかりでなく、終の棲家としてのホームの方針について、職員や家族と話し合いを設ける取り組みが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームでは、利用者や家族から個人・医療情報提供同意書を取り、同意を得られた利用者について、「そよかぜ通信」に写真等を掲載している。 また、利用者のプライバシーを損ねないように、声かけや支援を行っている。 利用者の記録は、事務室の保管場所に鍵をかけて保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課となっている草取り等の時間や食事を食べるペースなど、職員は利用者をせかすことなく、利用者のペースで生活している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳や皿洗い、皿拭きなどの利用者ができる事を職員と一緒にやっている。 利用者と職員は同じ食卓で、お互いに声を掛け合いながら、食事をしている。 外食をする時は、利用者の食べたいものを聞いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者に入浴の希望を事前に聞いて、一人ひとりの希望にあわせた、入浴支援を行っている。 浴室には2つの浴槽を設置しており、2人で入ることもできる体制になっているが、利用者はそれぞれに入浴している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握しており、利用者ができる事の役割を持って生活できるよう、場面づくりを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物他に、花見や地域の祭り見学、映画鑑賞や外食などの企画をたて、利用者が外出する機会を設けている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは2階にあり、ユニットの入り口や階段は、安全に配慮するため、鍵をかけているが、ベランダや事務所を通してユニット間の往来が自由にできる環境となっている。 草取りや敷地内の掃除、散歩に外出などは、職員が見守りながら自由に行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と協力した避難訓練や昼と夜の時間帯を想定した自主的な避難訓練を実施している。 また、災害時における食糧等の備蓄品は、県内の別のホームで貯蔵し、災害時には連携を図る体制となっている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	詳細にカロリー計算しており、栄養バランスの取れた献立を提供するとともに、利用者一人ひとりにあわせた調理方法を取り入れている。 また、利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量を記録している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は食卓のフロアとつながっており、調理をしている姿や美味しそうで食欲をそそる匂いが漂っている。 居室や共用空間には大きな窓のほか、障子を設置しており、陽射し等の調節を行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、机の代わりになるテーブルや間取りの広い物入れを設置しており、利用者は布団や鏡台、籐の椅子などの使い慣れたものを持ち込むとともに、写真やポスターなどを居室に飾り、安心して生活できる環境となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。